
経済 TOPICS

No. 148

(2018年7月25日)

景気ウォッチング(要旨)

1. 日本経済「成長テンポは鈍化しつつも、緩やかな拡大が続く」

1~3月期の実質GDPは一時的にマイナス成長となったが、輸出や設備投資は堅調を続けており、緩やかな拡大基調を持続している。もっとも、住宅投資は弱含み、輸出も増勢鈍化、個人消費も力強さに欠けるなど、成長テンポは鈍化しつつある。

金融当局は異次元緩和政策を当分解除できないとみられており、為替相場は110円台前半、長期金利は0.0%台、株価は22千円台前後で、落ち着いた動きを示している。

2. 米国経済「景気拡大が続いており、金融当局は徐々に金利を引上げ」

米国経済は、昨年来、年率3%前後の高い成長を続けている。先行きについても景気拡大持続を示唆する指標が多く、大幅減税・財政支出による景気過熱への警戒感が強い。もっとも、貿易摩擦激化の影響が見極めがたく、金融市場は一進一退の動き。

緩やかながらも物価が上昇しており、金融当局は、6月に今次7回目の政策金利引上げを実施したほか、先行き2020年末までにあと6回程度の利上げを行う可能性を同時公表。



京都銀行グループ

京都総合経済研究所
